

松江市における高齢者の運転免許自主返納に関する調査・分析

島根県庁 正会員 ○品川 はるか
 松江高専 正会員 浅田 純作
 島根大学 飯野 公夫

1. はじめに

現在、日本では少子高齢化が進み、高齢ドライバーが増加している。全体を通して交通事故死者数は年々減少している中で、高齢者の割合が高くなっているなど、高齢ドライバーの事故が問題となっている。そこで、高齢者の交通事故防止等のため、運転免許の返納制度が設けられている。返納した高齢者を対象に、様々な特典を用意し返納を促している。既存研究¹⁾では、運転免許を返納することで身分証がなくなってしまうという問題が指摘されていた。そこで運転経歴証明書という運転免許証の代わりとなる身分証を発行することで自主返納をする高齢者が増えてきつつある。しかし、自主返納が進んでいないのが現状である。

本研究では高齢者の運転免許自主返納を促進することを目的とし、運転免許の返納へ至ったきっかけや返納の妨げとなる要因について調査・分析を行う。本研究では、自主返納と健康状態との関係性についての分析も行うため、松江市で実施されている介護予防を目的としたアンケート調査に運転免許自主返納に関する設問を追加した。

2. 研究概要

現在、松江市在住の65歳以上の高齢者を対象に「まめなか?!チェック」²⁾という介護予防を目的としたアンケート調査が行われている。本研究では、このアンケートの中に運転免許自主返納についての設問を新たに組み込み分析した。その概要は表1に示す通りである。アンケートの集計結果をもと

3. アンケート調査結果

図1は自主返納の意向についての調査結果であり、自主返納を考えていない人の割合が約6割を占めていることがわかる。そして、自主返納した人は1割にも達しておらず、自主返納が進んでいない状況がわかる。次に、図2は高齢者の健康状態と自主返納の意向とのクロス集計の結果である。健康状態がよいと思っ

表1 調査概要

調査名	まめなか?!チェック
調査対象	松江市在住の65歳以上の奇数年齢の要介護認定を受けていない高齢者
調査期間	H28.6.15～H28.9.14
調査方法	郵送配布・回収
配布数	23,200人
回答数	14,482人
回収率	62.4%

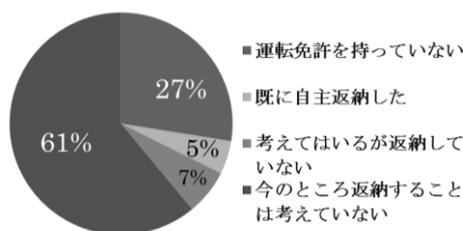


図1 自主返納の意向(N=10751)

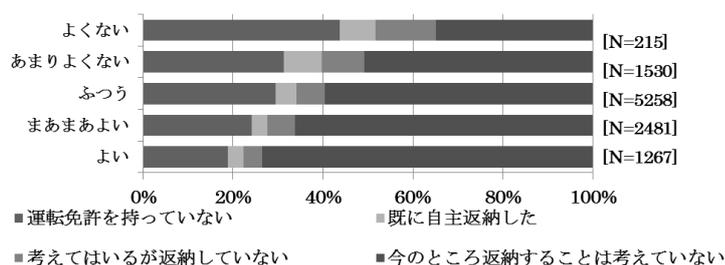


図2 健康状態と自主返納の意向 (N=10751)

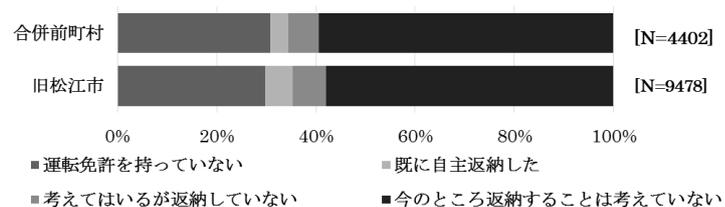


図3 地域別の自主返納の意向 (N=13880)

に、高齢者の自主返納の意向に強く影響している要因を探るため数量化理論Ⅱ類を用いて分析を行う。

キーワード 運転免許自主返納, 高齢者, アンケート調査

連絡先 〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校 環境・建設工学科

TEL 0852-36-5262

説明変数	カテゴリー	度数	カテゴリスコア	-1.0 0 1.0	レンジ	偏相関係数
送迎してくれる人の有無	1. いつでも頼める人がいる	6178	0.079969372		1.054448822	0.2006978
	2. ときどきしてもらっている	1433	-0.832062122			
	3. いない	3140	0.222386701			
送迎する人の有無	1. ほぼ毎日している	559	1.036505176		1.666049251	0.4300428
	2. ときどきしている	2979	1.122233797			
	3. していない	7213	-0.543815455			
なごやか寄り合いへの参加	1. はい	3745	-0.257727081		0.565188329	0.1203663
	2. いいえ	5119	0.075211671			
	3. なごやか寄り合いを知らない	1887	0.307461247			
地域ボランティア	1. 実際に活動している	3139	0.34621353		0.591446322	0.148639
	2. 活動はしていないが、やってみたいと思う	1683	0.175218725			
	3. 興味はない	3036	-0.221409394			
	4. わからない	2893	-0.245232792			
健康状態	1. よい	1267	0.229885902		0.756104676	0.0842213
	2. まあまあよい	2481	0.087559159			
	3. ふつう	5258	-0.011221352			
	4. あまりよくない	1530	-0.219843662			
	5. よくない	215	-0.526218773			
被説明変数	カテゴリー	度数	カテゴリスコア	-1.0 0 1.0	判別率	相関比
自主返納の意向	1. 運転免許を持っていない	2959	-0.738748238		43.8	0.2807928
	2. 既に自主返納した	521	-0.786252567			
	3. 考えてはいるが返納していない	713	-0.085824365			
	4. 今のところ返納することは考えていない	6558	0.405121439			

図4 数量化Ⅱ類を用いた自主返納の意識による要因分析 (N=10751)

人ほど、返納することを考えていない人が多いことがわかる。

また、図3は現在の松江市を旧松江市と合併前町村の2つに分けて自主返納の意向とのクロス集計を行った結果である。これより地域別では自主返納の意向に差がないことがわかる。旧松江市と合併前町村では公共交通の充実度に差があると考え、公共交通の充実度は自主返納の意向に関連が少ないと考えられる。

4. 自主返納の意向による要因分析

自主返納の意向を被説明変数として、数量化理論Ⅱ類を用いて分析を行った。説明変数を11項目として分析を行い、偏相関係数が高い上位4項目と健康状態を合わせた5項目について図4に示した。相関比は0.281であり、判別率は43.8%のため、スコアレンジ、偏相関係数を用いた検討は可能である。図4より、偏相関係数が大きい値を示す「送迎する人の有無」「送迎してくれる人の有無」「地域ボランティア」「なごやか寄り合いへの参加」の順に自主返納の意向に強い影響を与えることが分かった。また、カテゴリスコアの値が正であれば、自主返納を考える人が少なく、負であれば返納を考えている人が多いといえる。偏相関係数が一番高かった「送迎する人の有無」では送迎する人がいる人は自主返納をあまり考えていない傾向にあることがわかった。自らが誰かを送迎しなければならない高齢者は、自主返納ができない状況と推察される。

また、地域ボランティアで実際に活動している人は、自主返納を考えていない人が多いことがわかった。なごやか寄り合いへの参加の結果と結び付けて考えると、地域の活動や行事に関心があり実際に活動している人は、自主返納を考える人が少なくなっている。これは地域活動に参加するために、高齢者が車を運転しなければならない状況が考えられる。もしくは、地域活動に参加する人は行動的な人と考えられ、車の運転に関してもそれが反映していることが考えられる。また、今回の分析では健康状態がよくない人ほど自主返納の意識が高いといえる。しかし、健康状態が自主返納をする1番のきっかけにはなっていない。

5. まとめ

本研究により、高齢者が運転せざるを得ない状況にあることが自主返納を考えることの妨げになっていることが明らかとなった。健康状態がよくない高齢者でも、自分が誰かの送迎をしなければならない状況では自主返納を考えることができない。今後の課題として、高齢者が車を運転せざるを得ない状況を減少させるために、自主返納者や返納を考えている家族の協力意識を高めることが重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 高齢運転者を対象とした運転免許返納制度に関する研究, 野田宏治・山岡俊一・大森峰輝・萩野弘, 豊田工業高等専門学校研究紀要 no. 47, pp. 19-24, 2014
- 2) マイ市報松江(平成28年10月), <https://matsue.mykoho.jp/>